スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

神奈川県 藤沢市

自 治 体 名 ： 神奈川県　藤沢市
担 当 課 名 ： 藤沢市教育委員会　教育指導課
電 話 番 号 ： 0466-50-3559

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	69.56 ㎢
人口	443,788 人
公立中学校数	19 校
公立中学校生徒数	10,768 人
部活動数	284 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市の中学校部活動の加入率は長きにわたり、８割を超える程高い率を維持しており、多くの生徒が部活動を通し、一人ひとりの個性を伸長し、豊かな心を培うための活動をしている。

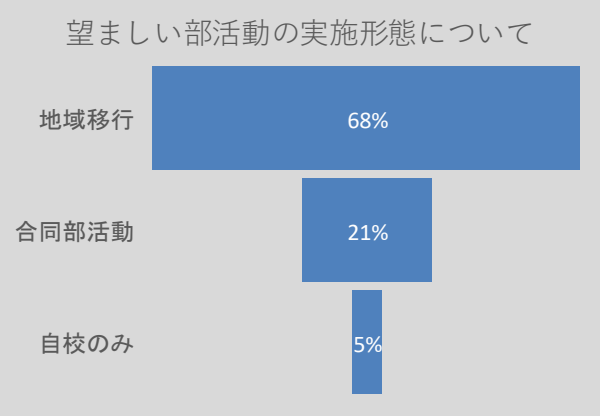
一方で、部活動を支える「教員の負担」については長年にわたる大きな課題である。

令和６年度９月に、本市の部活動の課題とニーズをつかむことを目的とした「部活動アンケート」を実施したところ、今後、生徒数が減少し、校内の部活動の設置数や部員数が減少していくことが考えられるが、その場合、部活動はどのような実施形態が望ましいと考えるかという質問に対して約7割の教員が「地域に移行したクラブ活動として行う」という回答であった。

部活動の地域連携・地域移行については、部活動指導員をはじめとする地域指導者のより一層の活用とともに、モデル実証の実施から得られた知見を活かし、教員と地域指導者の十分な連携を意識した取組を行う必要がある。



出典：令和６年度藤沢地区運動部調査



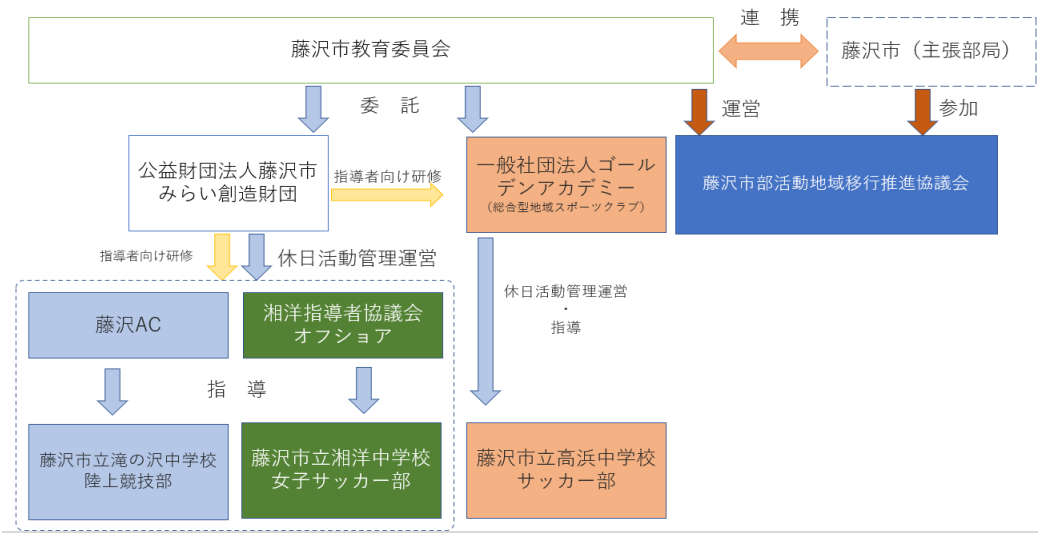
出典：令和６年度「部活動アンケート」

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制･役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（教育総務課、学務保健課、教育指導課　、学校施設課）
部活動地域移行の運営事務局
・協議会の運営
・モデル実証の検討　等

◉首長部局（生涯学習部　生涯学習総務課、文化芸術課、スポーツ推進課）

教育委員会各課と共に部活動地域移行の運営事務局を担う。

年間の事業スケジュール

令和６年４月	モデル実証の委託契約
８月	第１回藤沢市部活動地域移行推進協議会
11月	第２回藤沢市部活動地域移行推進協議会
令和７年２月	第３回藤沢市部活動地域移行推進協議会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	12 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
藤沢AC	任意団体	陸上競技	月 2 回	9:00 ～ 12:00	1年生10人 2年生 9人 3年生18人	24/4/1 ～ 25/3/31	藤沢市立滝の沢中学校	4人	4人 （内、兼務4人）	なし	中体連：部活動
湘洋指導者協議会オフショア	一般社団法人	女子サッカー	月 4 回	13:00 ～ 16:00	1年生11人 2年生11人 3年生 5人	24/5/1 ～ 25/3/31	藤沢市立湘洋中学校	6 人	4 人 （内、兼務4人）	なし	その他：地域クラブ
ゴールデンアカデミー	一般社団法人	男子サッカー	月 4 回／週 1 回	日曜日午前	1年生10人 2年生 9人 3年生 4人	24/4/1 ～ 25/3/31	藤沢市立高浜中学校	2 人	2 人 （内、兼務 2 人）	なし	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●市内複数校での合同練習会　2024年9月16日（滝の沢中学校陸上部、第一中学校陸上部）

2.実証内容と成果

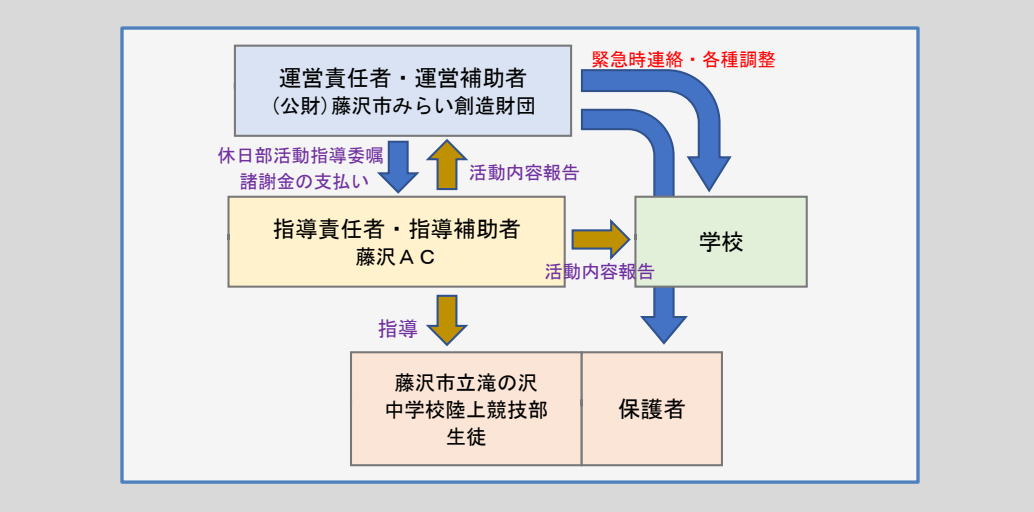
スポーツ庁

主な取組例

●藤沢AC　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	藤沢AC
期間と日数	24年4月1日 ～ 25年3月31日 月2回程度
指導者の主な属性	社会人
活動場所	滝の沢中学校グラウンド
主な移動手段	交通用具
１人あたりの参加会費等（年額）	なし
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営責任者　　１名
　役割：研修の企画・実施、指導者団体と学校との連絡調整、生徒・指導者の保険加入、事故発生時の保護者・学校への対応等を行う。
●運営補助者　　３名
　役割：運営責任者不在時において運営責任者の役割を担うとともに、運営責任者の業務補助を行う。
●指導者責任者　１名
　役割：部活指導の計画立案と実行、生徒に対する指導内容についての責任を担うとともに、日常の活動について運営責任者・部活顧問・保護者との連絡調整を行う。
●指導補助者　３名
　役割：部活指導補助を行うとともに、責任者不在時における関係者との連絡調整を行う。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

指導者の質の確保として、地域指導者基礎研修を実施した。

研修の内容としては、１.安全管理の内容として①応急手当の流れ、②AEDを使った心肺蘇生法、③止血法・外傷(打撲・ねん挫)に対する応急手当(PRICE処置)、④熱中症の予防と対処法、⑤事故防止のための基本的な留意事項など、２.コンプライアンスの内容として①コンプライアンス順守・体罰・ハラスメントの防止、②安心・安全な部活動について、③事例紹介など、を中心に実施した。

研修の講師として、本事業の運営団体である(公財)藤沢市みらい創造財団のプール統括マネージャーであり応急手当の有資格者で経験豊富な職員が安全管理の研修を担当し、コンプライアンスについては市内大学における講義などで経験豊富な職員が担当した。

指導者研修の参加実績

・開催日：　2024年12月 1日(日)　15:00～18:30
・開催回数：　1 回
・参加人数：　5 人
・実施場所：藤沢市秩父宮記念体育館(藤沢市鵠沼東8-2)
　　安全管理研修会場(1階　多目的室)
　　コンプライアンス研修会場(2階　研修室)

受講者の声

安全管理については、繰り返し経験・実践することが重要と感じたという感想や、ハラスメントについては、参加できなかった他の指導者とも共有したいという感想があった。また、指導者は県などの他団体が主催する研修・講習会などに参加されている方も多く、ハラスメントなどは、他団体の講習での内容と重複するものが多かったとの意見もあった。
なお、指導者の方々は社会人であるため、時間的に参加が難しいという声も多く聞かれた。

基礎研修以外に関心のある・学んでみたい内容としては、昨年実施時の意見から引き続き、「スポーツに関する栄養指導・健康指導」や「スポーツ現場におけるメンタルコーチング」など、成長期であり且つ精神的にデリケートな世代である中学生の部活指導に携わる方々の意識の高さが感じられた。

今後の課題と対応方針

指導経験の豊富な受講者からは、さらに発展的な研修として、昨年来、栄養やメンタルについて学ぶ機会を希望する声がありました。受講者アンケートを有効なものにするためにも、ぜひ実現したいものです。当面、今年度は、本事業の中で実施するものではありませんが、3月15日に(公財)藤沢市みらい創造財団が開催する「ジュニアのためのスポーツ栄養講座」や、来年度6月28日に藤沢市体育協会が開催する「スポーツ心理学から考える上手くなるためのコツ」に関し、受講希望を募り参加枠を確保することで、受講者のニーズに応えたいと考えています。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

滝の沢中学校陸上競技部及び湘洋中学校女子サッカー部においては、広域的な取組として他校の部員と合同練習することや普段の練習からリーグ戦参加に至るまで近隣校生徒が参加しやすい環境づくりに尽力した。

各自治体の役割

実際に拠点校を訪問し、活動状況の把握に努めるとともに、教員をはじめ、生徒や保護者の声を幅広く聞くためにアンケート実施した。さらに結果を分析し地域人材確保につなげる取組を検討した。

移動手段

公共交通機関等を使用し、各自で現地まで移動したり、同一部活動からの参加が多い場合には、指導者が引率している場合もあった。

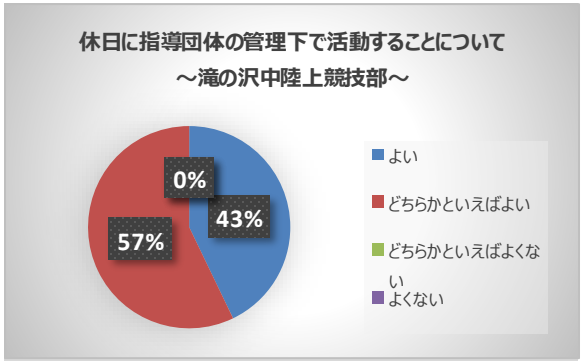
事務局運営の方法

（公財）みらい創造財団に業務委託し、財団が総括コーディネーターとして運営を行った。

教育委員会事務局は、その都度活動状況について報告を受けた。

取組の成果

地域クラブとしての活動が行われることで、顧問の負担軽減や地域との繋がりが強化される点が好まれている。多くの生徒が専門的な指導を受けられることや、地域のクラブ活動を通じて他校の生徒と交流できることが有益と感じている意見が多い。



今後の課題と対応方針

活動場所や施設の不足、怪我への対応等指導者の管理体制の改善が求められるため、地域クラブとの関わりについて学校側と密に連携し安定したシステムを構築する必要がある。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

クラブ指導者の導入・地域クラブ活動への移行は、顧問の負担軽減と生徒の技術向上に貢献している一方で、休日のみの移行だと指導の一貫性や運営体制の課題も明らかになっている。

また、地域クラブ活動に移行するにあたり、今まで部活動が担ってきた人間教育的側面への保護者からの期待や、普段の学校生活も見ている教員と休日の部活動のみを指導するクラブ指導者の連携・共通認識の難しさもある。

今後は、指導者間の連携強化や運営面での安定性、管理体制の強化が重要な課題となる。さらに、財政的な課題に対しても、持続可能な運営のために協力体制や支援の充実が求められる。指導者謝礼や保険加入などの運営費用が自治体の補助に依存している現状では、規模拡大には限界があり、地域クラブとして持続的に運営するためには受益者負担や関係機関の理解が重要となる。

●成果の評価

1.専門的な指導の効果

外部指導者による専門的な技術指導が生徒の技術向上に寄与しており、多くの生徒と保護者から高く評価されている。特に、外部指導者が持ち込む新たな視点や異なる戦術が有益だとされている。

2.顧問の負担軽減

外部指導者の活躍により、顧問の負担が軽減され、教員が家庭の事情等でより柔軟に休養を取れる環境が整った点は支持されている。

3.地域クラブ活動の利点

地域クラブとの連携により、他校との交流や専門的な指導を受ける機会が増え、生徒にとっての活動の幅が広がった。また、地域クラブ活動が学校と地域のつながりを強化する点も評価されている。

●課題

1.平日・休日の指導内容の一貫性

クラブ指導者・顧問間の指導方針や役割分担の統一が不足しており、時には指導内容がわかりにくいとの生徒の意見もある。また、そのことが起因でクラブ指導者・顧問間で事務的にも精神的にも負担が増している事例もある。（団体競技）

2.指導者の頻度や数の不足

指導者の数が不足しており、指導の質や継続性が確保されない懸念が示されている。

3.運営の財政面と持続可能性

クラブ指導者・財団からは、地域クラブ活動の運営には、資金や人員の確保が難しいとの意見があり、特にボランティアベースでの活動には限界があると指摘されている。

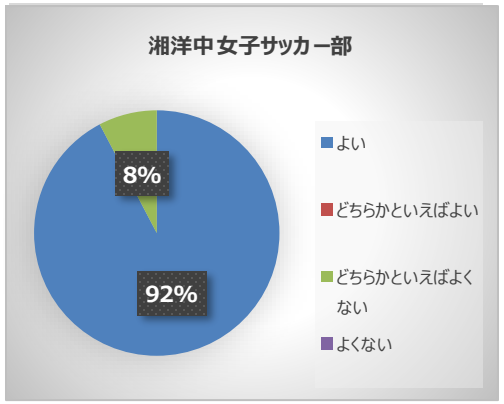
2.実証内容と成果

スポーツ庁

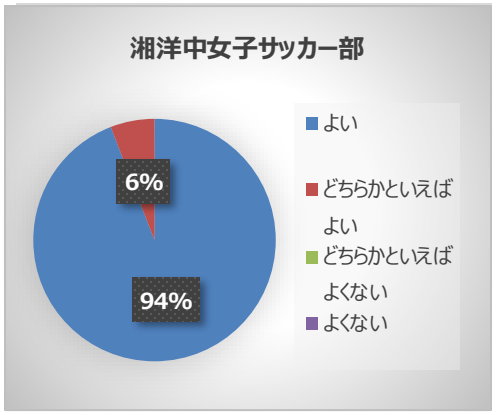
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

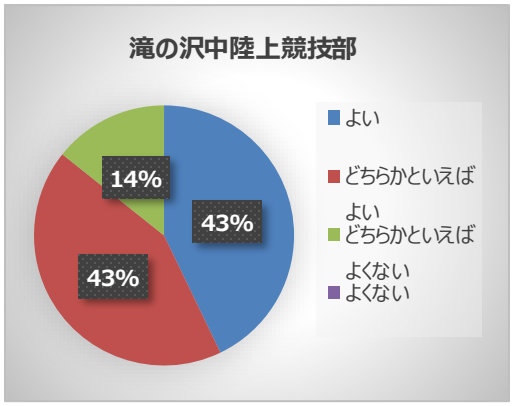
【保護者】
外部指導者の指導について



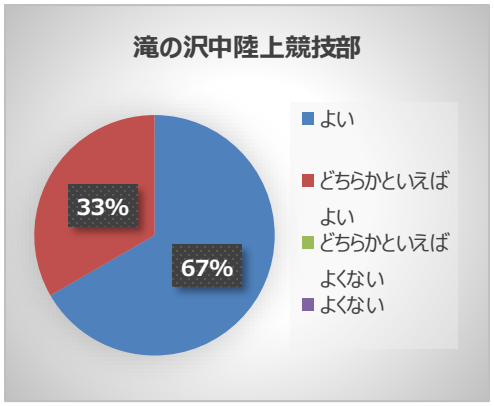
【生徒】
外部指導者の指導について



【保護者】
外部指導者の指導について



【生徒】
外部指導者の指導について



●参加者の声

高浜中学校サッカー部（保護者）
・専門性の高い指導者がいる。
・顧問の先生の負担が減る。
・いろいろな人と関わり指導してもらえたら学びを増やせると思う。

湘洋中学校女子サッカー部（生徒）
・経験者の人がいてくれると頼れる、安心する。
・学べることが多く、役に立っている。
・わかりやすく教えてくれる。
・専門的な意見をより多く聞くことができる。

滝の沢中学校陸上競技部（保護者）
・専門分野の指導を受けることができる。
・地域の方と関わる機会が減る中、外部クラブを知るきっかけになっている。
・他校の生徒との交流が練習方法など良い刺激になる。

滝の沢中学校陸上競技部（生徒）
・専門のコーチに指導してもらえる。
・コーチがたくさんいればいろんな視点でアドバイスをもらえる。
・教え方が上手で、しっかり生徒と向き合ってくれるから。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【陸上競技：地域指導者による基礎練習の様子】



【陸上競技：地域指導者による指導の様子】



【女子サッカー：地域指導者による技術練習の様子】



【サッカー：地域指導者による技術指導の様子】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和４年　　令和５年～

「藤沢市部活動地域移行準備連絡会」設置

●ステークホルダー
・藤沢市・藤沢市教育委員会
・藤沢市立学校長等教員
・藤沢市スポーツ事業関係者
・藤沢市文化芸術事業関係者
●経過
文部科学省が示す「部活動地域移行」について、藤沢市における在り方を構築するため、11月から検討を開始した。
●実施内容
・藤沢市の特性を活かした部活動地域移行とは
・令和５年度部活動地域移行委託事業構想案
等について協議を行った。
様々なお立場からご意見をいただけた。
今後も積極的に取り入れていきたい。

受け皿団体や指導者の選定、活動学校の選定

●ステークホルダー
・藤沢市教育委員会
・受け皿団体
・学校長
●経過
受け皿となりうる団体として、総合型地域スポーツクラブが想定されたことから、市内の総合型地域スポーツクラブへ検証参加の意向調査を実施し、受け皿となる意思を確認した。
●実施内容
・総合型地域スポーツクラブへアンケート
調査を実施
・活動場所となる学校との調整
●実施にあたって生じた課題
実際に受け皿となることができる団体及び学校が少なく、指導者確保や学校の選定が困難であった

生徒、保護者への説明

●ステークホルダー
・藤沢市教育委員会・学校長
・生徒・保護者
・管理運営団体・指導団体
●経過
市教委・学校長・受け皿団体で令和５年度の活動に向け、生徒や保護者が安心して参加できるような説明になるか検討。
●実施内容
・活動学校ごとに保護者説明会を実施
・保護者から懸念点や質問について回答。市教委からだけではなく、受け皿　団体から直接説明をすることで、保護　者の安心につながった。

地域クラブ活動の開始

●ステークホルダー
・藤沢市教育委員会・学校長
・生徒・保護者
・管理運営団体・指導団体

●経過
市教委・管理運営団体・指導団体・学校長等と調整を行い、保険加入が終了次第活動を開始。
新入生保護者向けには、管理運営団体と指導団体が学校長と調整の上、改めて説明を実施。

●実施内容
・活動学校ごとに保護者説明会を実施
・保護者から懸念点や質問について回答

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和７年度	令和８年度	令和９年度以降
藤沢市教育委員会	学校部活動の縮減・教員の働き方改革の促進 モデル検証の継続 **※モデル検証実施の必要性を含めて検討していくことから、令和８年度以降は未定**		
藤　沢　市	具体的な方向性等を教育委員会と市長部局が協力をしながら検討	※令和８年度以降具体的な時期は**今後調整のため未定**	